NIE実践報告

1．タイトル：「伝え合う力」を育む新聞の活用

2．学校名

宮崎県立高城高等学校

3．実践者名（代表者名）

横山康代

4．学年

第２学年

5．教科・領域名および受講児童・生徒数

国語　現代文　（７８人）

6．単元（本時の学習課題）名

銀杏祭（学校祭）を新聞記事で表現しよう

7．目標(狙い)

・学校祭の様子を「個人新聞」の形を取り、みんなに伝える。

8．評価の視点

・客観的な視点で伝えているか。
・全体・学年・学級・個人、それぞれの立場での記事が入っているか。
・自分（作成者）らしさが表現されている。

9．年間指導計画における本単元の位置づけと時数
（または、単元展開および時数と本時の位置づけ）

・学校行事終了後宿題として実施。

10．単元（本時）の学習展開（含む時数）と留意点

（実施の前に）　・入学以来、新聞に触れる機会はかなり多い。
・日常的に掲示板の切り抜きを目にしている生徒達である。
・授業の導入に新聞記事が使われることが多い。
・学校が新聞の地方版に掲載される機会もあり、新聞を身近に感じている。
以上を踏まえて、３日間の学校祭（文化祭２日間と体育大会）を「個人新聞」としてまとめる宿題を出した。

（留意点）　・公正な立場で客観的な記事を書く部分と、個人らしさを表す部分のバランスに留意させた。
・学校行事全体を見渡す（表面に出る人ばかりではなく裏方の仕事も視野に入れる）記事を書く事を条件とした。
・全員で読みあって評価をする、作品は掲示板に展示する事を予告し、不特定多数の人が読むので、読んだ人が不快感を持たない記述を心がけさせた。

11．児童・生徒の反応、感想・意見

・宿題として生徒に作成させたものである。しかし、提出したものを掲示板に貼ること、みんなで見ることを事前に伝えておいたので力作が集まった。「学校祭」という同じ体験をしたにもかかわらず、記事の視点や感想が違うことに生徒達は驚きを持っていた。そのことから、自分の気持ちや考えは、伝えようと努力しなければ不確実に伝わらない、「こうあるべき」と分かってもらうためには、相手に理解を持ってもらうための工夫をする、大切さを学んだ。

12．成果と課題

・宿題で作成させたが、予想以上によい作品が集まった。これまで新聞の切り抜きを見たり、自分で切り抜いたり、壁面装飾をしたりしたことが生かされていることが分かった。
・今後はさらに１歩踏み込んで、社会問題などをテーマに、作成させたい。そのためには宿題ではなく時間を設定して授業の中で実施する予定である。